



て誠に有り難う御座居ました。

今回の計画当初は七、八十名位御参加願えるだろうかと一時考えていたのですが、どうして締切前には一時百名を突破したのでありますがその後急病やその他止むを得ない御用件の為欠席の御連絡がありまして結局本日の出席者はお手許のリストにありま

す様に、百名は切れましたが九十五名と云う盛会になりました。処で御報告が前後致しましたが、この度の計画に對しましては鈴木会長及び太陽鋳工(株)さんからは、一方ならぬ御配慮を頂きまして又、格別の御援助として夫々多額の賛助金を頂きました事を皆さま方に、御報告申し上げますと共に甚だ潜越ではあります、會員を代表致しまして改めて厚く御礼申し上げます。

本当に有り難う御座居ました。さて想い起しますれば去る三十八年五月十三日、この有馬中の坊の新築間もなき有馬グラウンドホテルで開催致しました全国大会から数えて、二十二年振りでありまして、その時の参加者は一二八名でありました。今回との差三十三名

減。一寸寂しい想いもせぬではありませんが凡ては二十二年間の歳月が総べてを物語っていると思うのであります。

それ文に一期一会。辰巳会の会合には是非万難を排して御参加頂きたいと念願致しております。尚これは今の処、私見であります。次が次の三十周年の一泊宿りの全国大会には今日御出席の皆さまには是非全員御出席頂きますよう、又その為にはこの上ともに御健康に御留意頂きます様々もお願い申し上げます。

こうした席上で長々とおしゃべりするのには野暮の骨頂と心得ますのでこの辺でお役御免とさせて頂きますが、一つお願いがあります。それは「たつみ」誌の編集の締切りが近づいて参りましたのでお手許の原稿は火急にお送り頂きたいと存じますのでよろしく御願ひ申し上げます。

それでは最後に去る一月二十三日の第一楼に於ける新年会以後に連絡のありました亡くなられました方々は四名であります、本大会に先き立ちまして去る十日本部幹事打揃いまして祥竜寺に於いて先程御報告申し上げました四人の

内、一昨日亡くなられました曾我野さんを除き昨年の大会以後に亡くなられました十七名の方々の法要を営みまして、後懇ろに辰巳会慰霊塔に合祀申し上げました事を茲に謹んで御報告申し上げます。

それでは以上の方々の御冥福を心からお祈りして皆さんと共に黙禱を捧げたいと存じます。

黙禱始め 黙禱終り  
以上で会務報告を終らせて頂き有り難う御座居ました。



ます。御清聴有り難う御座居ました。

### 東京支部新年例会

今年の新年会は一月二十九日、会場はいつもの築地スエヒロで開かれました。寒さもそれ程厳しくなく春めいた天気では恵まれた当日でした。出席者は去年より少し減ったが一人、二人と定刻前から元氣な顔が見え、始まる迄のひと時を静かな和室でゆっくりと寛いで過した。定刻正午には略々全員が集合。

皆さんが席についた後斎藤幹事より開会の挨拶が述べられる。全国大会のこと、今年は辰巳会二十五周年になるので神戸で行うことが、次いで西川氏より乾杯の言葉が述べられ一同ビールで乾杯、かくして和やかに開宴となる。当店自慢のピフテキが出る頃は気分も最高、話し声も弾んでくる。

その間本年の長寿番付が廻される。会の平均は何と八十三歳とのことでお目出たいことである。會員の益々の御健在を祈る。本日も九十歳を越す広野、宮本氏のお顔がある。部屋の落ちついた雰囲気

と相まっていかにもアットホームな会食気分がもし出される。

この間移川氏より日頃接している体験より今の若い人についての話が、考え方、精神論、宗教その他に関して述べられた。

広野氏より三菱に決っていたのに鈴木商店に入ったいきさつ、鈴木温かき、更に健康に関する日々の感謝の気持ち、こもり勝ちを廃して毎日交詢社にいつている等有益な示唆が。

小島氏も同じく健康と外出の効用を、

加藤氏よりは昨冬前立腺を手術して今は気分がすっかり良くなった経験を紹介、松井女史より明治の歌と和氣あいあいである。

安東幹事より本日の集りに賛助頂いた日商岩井、帝人、神鋼、豊年、光鶴園及び日塩の報告とお礼が行われた。かくして予定の時間もたち最後に日本発条会長藤岡氏の音頭で辰巳会の万才を三唱して閉会となり、各社よりの好意の寄贈品を土産に各自家路につきました。

(日塩・U記)

### 春季旅行記

#### 初夏の日光を訪ねて

辰巳会東京支部の春季旅行を日光の東照宮を参拝し、晝食は堯心亭の精進料理を味わうことに決めた。

六月十四日に行つた。当日の朝は、小雨模様で、

どうかかと心配であった。参加予定者三十名のところ、四名が欠席され二十六名で定刻より十五分遅れ、八時四十五分出発した。

特に今回は名古屋支部より竹下富士松さんと岡本志良さんが、朝一番の新幹線で駆け付けて参加して下さり、一同感激した次第である。

車は薄曇りの小雨混りの都内を通過、岩槻インターから東北自動車道に入り、一路北上した。車中で斎藤さんの挨拶、石田さんの今回の旅行計画についての話や、日光東照宮の解説、はては堯心亭の精進料理にまで話は及び、皆熱心に耳を傾けている。

運転手の直井さんも、こちらが年寄りグループのせいか色々気を使ってくれ親切そうな人である。これなら今日のバス旅行は楽しく

過ごせそうだ。

空も明るくなり、どうやら雨も上った。ドライブも順調に、神橋を左に見て十一時三十分、目的地日光に着、そのまま堯心亭のモータープールに入る。

ここは千古の歴史を秘めた日光不動苑に建てられた精進料理の店である。数寄屋造りのしょうしやな亭は落ち着いたふんいきがある。

この精進料理は一二〇〇年の歴史があり、その昔、修業僧達の回峰行の蛋白源として発達したものだそうである。我々の舌に珍らしく楽しく味わう。

小憩後一時に、二社一寺に参詣のため出発。ガイドの案内で、輪王寺の境内に着いたところで写真を撮られる。何やら分らぬが気に入ったら帰りしなに買ってくれという。

三仏堂で坊さんの説明があったが、お札の効用の方の説明が長くて味わいの悪い思いがした。

拝観料を払って東照宮へ。先づ正面の石段、下が広く、上が狭い。遠近法の技法をとり入れたもので、表参道から見た奥行き美しさを強調している。ここ



辰巳会昭和59年度決算

(59. 4. 1~60. 3. 31)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越		支出	
現金	15,350	大会、例会費	1,158,846
預金	1,809,240	たつみ誌(2回)	1,083,810
喜寿杯在庫	310,000	支部経費	500,000
供養塔勘定	△ 443,722	慶弔費	153,000
計	1,690,868	印刷費	91,000
		通信費	311,670
収入		消耗品費	10,720
大口広告料、会費	2,000,000	旅費交通費	64,480
小口	588,000	雑費	169,642
賛助金	40,000	計	3,543,168
預金利息	31,945		
大会例会会費	857,000	次期繰越	
計	3,516,945	現金	17,582
		預金	1,795,585
		喜寿杯在庫	232,500
		供養塔勘定	△ 381,022
		計	1,664,645
合計	5,207,813	合計	5,207,813

供養塔勘定昭和59年度決算

(59. 4. 1~60. 3. 31)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越		支出	
本勘定へ預け金	443,722	管理費	62,700
		次期繰越	
		本勘定へ預け金	381,022
合計	443,722	合計	443,722

カメラで記念撮影。

日本一といわれる石鳥居をくぐり、五重塔を左に見て、仁王門を眺め、神麿舎の前に入る。白馬が薄暗い馬舎の中におり、十時に出て来て二時に帰るのだからである。質素な建物だが、その長押しには猿の彫刻八面がある。猿は馬を病から守るといふ信仰によるものだそう。左から二面目が有名な「見ざる・聞かざる・言わざる」の三猿で東照宮三彫刻の一つ。

東照宮は、昔は我々庶民のものではなかったが、今は拝観料さえ払えば自由であり、勅使や、将軍や、何万石以上の大名以外は行かれなかった拝殿の奥の奥までも行かれる結構な世の中になったものである。

東京支部春季旅行会参加者  
昭和六十年六月十四日 順不同

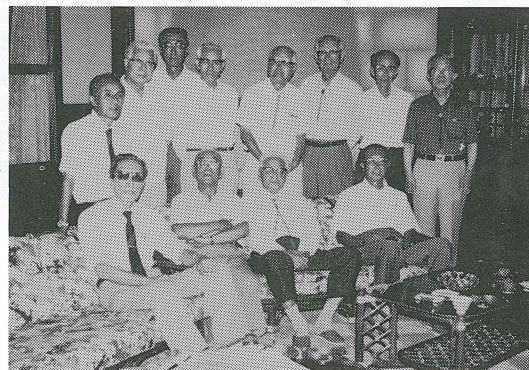
斎藤 馬吉	荒木 従縄	宮本 守恵	松井 タケヨ	塩津 静均	塩津 均	山本 勇治	竹下 富士松	立花 敦子	立花 敦子	芦原 有治	上野 金治
新村 胡乃	石田 俊一	加藤 義雄	同	志水 芳子	建部 清也	宮本 雪子	田辺 満寿子	嶋内 桃枝	中島 英吉	岡本 志良	以上三十名

クに又写真を一枚。  
いよいよ本殿に上る。拝殿には天井、左右杉戸に狩野探幽筆による極彩色の絵が描かれている。どれもこれも国宝級の絵である。ここで他の団体客と一緒に若い巫女さんの説明を受け、更に数段下った石ノ間に進む。  
本殿へ行くには又段を上るのであるが、ここで神官の説明をうけて参拝する。

時間の関係で眠猫は省略して、本地堂(鳴滝)へ行く。天井に描かれている竜の下で、四人一組になって一列に並び、誰かの合図で一緒に手をたたく。周りが騒がしいのでルルル...と、鳴いたかどうかわからなかった。見学もこれまでで、堯心亭の隣りの明治館まで引返す。ガイドも年寄りだったので別れしな、歳を聞いたら七十八歳とのこと。時折説明の間に大きな声を出したり、冗談を言ったり笑わせたり、面白い人だった。

明治館は、明治時代の残り少いモダンな石の館で、その後政財界の人々の別宅として使われていたところである。ここで温かいお茶で暫し疲れをいやし、三時、日光を後にする。  
途中、今市で日光みそのたまり漬をお土産に買ひ皆様に差し上げる。

(中島記)



幹事会(六甲太陽荘)